

第46号

編集・発行

東京都高等学校
文化連盟事務局

新しい道へ歩きだせるか

東京都高等学校文化連盟会長 荒井 篤
(東京都立東久留米総合高等学校)

令和6年度の締めくくりにあたり、1年を振り返り、東京都高等学校文化連盟を取り巻く状況を共有させていただきたいと思います。

令和6年5月24日（金）の第1回理事会において、都高文連の活動方針を提示させていただきました。その中で「持続可能な高文連を念頭に置きつつ、国際都市東京にふさわしい高校生の文化活動の発信基地として、また支援基地として、生徒の芸術・創造活動の充実・向上を図りながら、その純粋な情熱や活動を支え、その夢や目標の実現に向けて役割を果たしていく。」とし、いくつかの方策を示しました。ここでは主だった取り組みについて振り返ってみたいと思います。

【方策1】これまでの諸事業の在り方を見直し、真に持続可能な高文連であるために

都高文連規約や諸規程については「とうきょう総文2022」に関連して改定した時限加盟部門などについて、全国専門部の動向も確認しながら確認・修正してきています。現在のところ吟詠剣詩舞部門は令和7年度末までの加盟となっています。また、令和6年度はボードゲーム部門を仲間に加えて出発しました。こうした新しい部門ができるのも時代の流れでしょう。予算の分配を考えれば新しい部門の乱立は避けねばなりません。ボードゲーム部門のことを多くの高校生に知ってもらい益々の発展を願うところです。

活動方針では都高文連が主催している各行事についての開催要領の検討をも謳っています。「東京都高等学校文化祭総合開会式兼全国高等学校総合文化祭壮行会」については、コンパクトでありながらも、全国大会へ出発する各部門の生徒をしっかり励まし送り出せるよう、進行の工夫を重ねてきました。全部門が一堂に会する貴重な機会ですので、今後とも部門同士お互いの健闘を願いながら交流を深めていただければと思います。部門会長を始め関係の皆様のご出席を何卒お願いいたします。

優秀校東京公演についても持続可能かつ生徒の芸術・創造活動の充実を図るものとして見直しが進んでいます。今年度は国立劇場の建て替えのため新国立劇場での初の開催となったことも重なり、出演校数やリハーサルも含めた宿泊日数や活動時間の短縮などにより、参加生徒の負担の軽減に取り組みました。初めての会場での開

催ということもあり東京都の特別公演枠や、都高文連の茶道部門による呈茶を始めとした運営協力の取りやめなど、大胆な見直しで参加生徒やスタッフの負担を減らそうと検討が進められました。

次年度以降のプランについても、都高文連としては主催4者の一つとして関わってきた経緯を踏まえつつ、都高文連にとっても持続可能な東京公演のあり方を模索することになるでしょう。

【方策2】先催県としての「ぎふ総文2024」への参加

7月31日（水）から8月5日（日）まで開催された「清流の国ぎふ総文2024」は長良川のほとり、歴史を感じる岐阜市を中心に成功の裡に終えました。各専門部でも「とうきょう総文2022」からのバトンがしっかり渡された事を確認できたことと思います。

【方策3】社会の変化に柔軟に対応する高文連の創造

令和5年度より都教育委員会の「部活動検討委員会」に年3回参加しています。中学校では地域の行政機関や大学、スポーツ協会等の協力で部活動の地域移行が着々と進んでいますが、高等学校の部活動の在り方についても、中長期的な展望を探りながら、その方向性についての各部門の意見を吸い上げ、検討を行っていききたいと思います。

令和7年度以降は都教育委員会との連携の形も大きく変わっていきます。現在、都高文連の事務処理について指導部管理課との調整に取り組んでいるところです。都高文祭実施、全国高総文祭派遣などに関する諸費用の事務処理が変わる見通しです。

詳細は追ってということになりますが、少なくともこれまでの活動が維持できるよう努めてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染拡大以来変化の連続で、都高文連にとっても安寧な日々がいつ訪れるのか、と思うこともあります。今年度も生徒の真剣な眼差しや喜ぶ笑顔が沢山見せてもらうことができました。その姿を日々思い浮かべ、頑張ってもらいましょう。

これからも、高校生の芸術・創造活動を支援していくため、引き続きお力添え賜りますよう、お願いいたします。

充実した活動を取り戻した高文連活動 ～総合開会式兼壮行会について～

東京都高等学校文化連盟理事長 平林 正男
(東京都立保谷高等学校長)

3年余りのコロナ禍の時期を経て、東京都高等学校文化連盟の各活動は充実さを取り戻してきました。ここでは、これまであまり詳しく取り上げられてこなかった、総合開会式兼壮行会について、ご紹介いたします。

正式名称は「第47回東京都高等学校文化祭総合開会式兼第48回全国高等学校総合文化祭壮行会」となります。今年度は、令和6年7月14日（日）に、東京都庁第一本庁舎5階の大会議場で開催いたしました。これは、6月から翌年1月まで各部門で行われる東京都高等学校文化祭の中央大会（及び地区大会）について、全部門が揃って行う総合開会式であるとともに、この年は岐阜県で行われた全国高等学校総合文化祭（「清流の国ぎふ総文2024」）に参加する生徒・学校を激励する会となっています。またこの場合は、ふだん各部門別に活動している東京都高等学校文化連盟の全部門の生徒たちがお互いの活動を紹介し交流をする年に一度の貴重な機会ともなっています。今年は新たに加盟したボードゲーム部門を加えた全18部門による盛大な総合開会式兼壮行会となりました。

会は、休憩をはさんで前半と後半に分かれて実施されます。その内容を次第に沿ってご紹介しましょう。理事長による開会の言葉、国歌斉唱に引き続き、東京都高等学校文化連盟荒井篤会長がご挨拶申し上げます。続いてご参会いただきました市川茂・東京都教育庁指導推進担当部長、勝山朗・東京都教育庁指導部活動振興担当課長と、ご来賓の柳歆子・東京都中学校文化連盟会長をご紹介しました。さらに壇上にいる各部門会長の紹介ののち、第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会への推薦状を、荒井会長から各部門の代表生徒に交付しました。規定部門に出場する生徒への推薦状交付終了ののち、市川茂部長より、壮行の言葉をいただきました。

式典としての前半がおわった後は、壇上の演台や座席を取り払い、舞台上は各部門からの発表の場が変わりま

す。ここでは、全国高等学校総合文化祭に推薦された生徒たちが中心となって、各部門の活動発表が行われます。その年によって内容が変わることもありますが、主に大会で舞台での上演が行われる部門からは短い実演の披露、展示作品による参加を中心とした部門からは推薦された作品の紹介や制作の工夫についての報告、競技性をもつ種目の部門の生徒たちからはルールの説明や大会に臨む意気込みの発表などが行われます。また、この壇上での部門紹介の発表をする生徒以外にも、司会進行を放送部門の生徒が務めたり、ご来賓の接遇を茶道部門の生徒が行ったりするなど、ふだんの部門の活動を生かした運営で会は進められています。

部門紹介終了後、最後に、都立日野高等学校・榊渕太玖さん（美術・工芸部門）が、第48回全国高等学校総合文化祭参加生徒代表として挨拶を行い、今回の「第47回東京都高等学校文化祭総合開会式兼第48回全国高等学校総合文化祭壮行会」は閉会となりました。

毎年、夏休み前の7月第二日曜日を日途に開催されていたこの総合開会式兼壮行会ですが、コロナ禍による中止、また時程を短縮しての開催などの時期を経て、コロナ禍前の盛り上がりを取り戻して行われるようになりました。東京都高等学校文化祭は、部門によっては6月から地区大会が始まっていますが、この総合開会式を経て、部門の中央大会が8月の書道部門から翌年1月の音楽部門まで半年にわたって開催されます。加盟部門のなかには大会を開催しない部門もあり、この総合開会式兼壮行会はそれぞれの活動を知る重要な場となっています。まもなく新しい年度も始まりますが、また次の年も、この総合開会式兼壮行会が、東京都高等学校文化連盟加盟の全部門の代表生徒たちが集い合って暖かな交流の輪を広げ、第49回全国高等学校総合文化祭香川大会（「かがわ総文祭2025」）に向けた熱い思いの触れ合う場となることを願ってやみません。

目次

1 頁	新しい道へ歩きだせるか ・・・・・・・・・・ 会 長 荒 井 篤
2 頁	充実した活動を取り戻した高文連活動 ・・・・・・・・・・ 理事長 平林 正男
3 頁	目次・HP案内
4 頁	各部門の活動・・・・・・ 演劇部門
5 頁	各部門の活動・・・・・・ 音楽部門
6 頁	各部門の活動・・・・・・ 放送部門
7 頁	各部門の活動・・・・・・ 写真部門
8 頁	各部門の活動・・・・・・ 囲碁部門
9 頁	各部門の活動・・・・・・ 書道部門
10 頁	各部門の活動・・・・・・ 美術・工芸部門
11 頁	各部門の活動・・・・・・ 日本音楽部門
12 頁	各部門の活動・・・・・・ 小倉百人一首かるた部門
13 頁	各部門の活動・・・・・・ 将棋部門
14 頁	各部門の活動・・・・・・ 郷土芸能部門
15 頁	各部門の活動・・・・・・ 文芸部門
16 頁	各部門の活動・・・・・・ 新聞部門
17 頁	各部門の活動・・・・・・ 軽音楽部門
18 頁	各部門の活動・・・・・・ 茶道部門
19 頁	各部門の活動・・・・・・ 自然科学部門
20 頁	各部門の活動・・・・・・ 吟詠剣詩舞部門
21 頁	各部門の活動・・・・・・ ボードゲーム部門
22 頁	第 48 回全国高等学校総合文化祭岐阜大会を終えて 「漕ぎ出せ 新国立劇場の夏」
23 頁	令和 6 年度東京都高等学校文化連盟事業報告
24 頁	令和 7 年度全国高等学校文化連盟賛助会員 (東京都高等学校文化連盟扱い分)

【ウェブサイトのご紹介】

東京都高等学校文化連盟では、ウェブサイトの運用が始動しています。

本連盟の活動や部門紹介、その他の都内高等学校生徒による芸術・創造活動などについて情報提供しておりますので、以下の URL からご利用ください。どうぞよろしくお願いたします。

【東京都高等学校文化連盟ホームページ】

<https://tokyo-koubunren.jp>

演劇部門

部門事務局長 木原 延昭

演劇部門は今年度もたくさんの行事が行われました。

198 校の加盟登録があり、東京都高等学校文化祭演劇部門地区大会には 164 校が参加しました。地区大会は 6 つの地区を 2 つのブロックに分けて行われ、上演時間 60 分以内の規定のもと、1 日最大 8 校の上演が延べ 31 日間にわたって開催されました。

そして、全 12 ブロックから 2 校ずつ推薦された計 24 校が、第 47 回東京都高等学校文化祭演劇部門中央大会に臨みました。練馬文化センターにおいて 11 月 9 日（土）・10 日（日）、福生市民会館において 11 月 23 日（土）・24 日（日）の合計 4 日間行われました。演劇部門の長い歴史の中でも中央大会が 2 週間に亘って行われたのは初めてのことでしたが、どの日もほぼ満席の中、両会場とも大いに盛り上がりを見せました。

中央大会では、練馬会場から立川女子高等学校、福生会場から都立駒場高等学校が関東大会に推薦されまし

た。関東大会は、神奈川・横浜会場（南ブロック大会）で行われ、2 校とも独創的かつユニークな素晴らしい上演で観衆を魅了しました。結果は、2 校とも優良賞を受賞しました。

その他、各種講習会を実施、8 月 8 日（木）に東京芸術劇場にて舞台・音響・照明分野のスタッフワークショップ（顧問含 109 名参加）、8 月 19 日（月）から 21 日（水）まで千葉県大網白里市で合同合宿講習会を開催（生徒 108 名、引率顧問 17 名参加）しました。この 2 つの行事ともに例年行っているものですが、去年と比べてどちらも 1.5 倍の参加者でした。

各地区毎の行事も数多く開催されました。春のフェスティバル、冬季発表会、学年末発表会、各種ワークショップ、さらに他校との交流を図る催しがたくさん行われました。

令和 6 年度 第 47 回 東京都高等学校文化祭演劇部門 中央大会 (第 78 回 東京都高等学校演劇コンクール 中央発表会) 審査結果

◎練馬会場

【団体賞】

- 水木京太賞／審査員特別賞／東京都教育委員会賞（南関東大会推薦）
立川女子 『パウワウランドベイビーズ』 作：立川女子高校演劇部
- 落合矯一賞／東京都高等学校文化連盟会長賞（サマーフェスティバル推薦）
早稲田大学高等学院 『つながりマン 6 2』 作：早稲田大学高等学院演劇部
- 米本一夫賞
日本大学第二 『宇田川式ロミオ&ジュリエットーあなたを許せない』
作：宇田川豪大

○優秀賞（上演順）

- | | | |
|----------|----------------|--------------|
| 國學院 | 『Sparkle』 | 作：荒井夏希・関根蒼空 |
| 都立新宿 | 『へー、そう。』 | 作：羽賀康博・片桐尚哉 |
| 関東第一 | 『ねじまき母さん、空を往く』 | 作：川合 智 |
| 渋谷教育学園渋谷 | 『青い夢をみていた』 | 作：長尾美晴・中村深桜 |
| 京華学園 | 『アネモネ』 | 作：小笠原梢 |
| 拓殖大学第一 | 『妄想カタカタ。』 | 作：戸門真奈美・坂本恵理 |
| 都立日野台 | 『つなぐ』 | 作：五十嵐莉子 |
| 明大付属八王子 | 『気絶の子』 | 作：明八演劇同好会 |
| 都立忍岡 | 『全方向不正義』 | 作：明良 |

【特別賞】

- 榊原政常記念創作脚本賞
都立新宿 『へー、そう。』 作：羽賀康博・片桐尚哉
- 豊博秋記念舞台美術賞
拓殖大学第一 『妄想カタカタ。』 作：戸門真奈美・坂本恵理
- ◇中央委員会賞（生徒審査員による賞）
早稲田大学高等学院 『つながりマン 6 2』 作：早稲田大学高等学院演劇部

◎福生会場

【団体賞】

- 全国高等学校演劇協議会長賞／審査員特別賞／東京都教育委員会賞（南関東大会推薦）
都立駒場 『学校まで、片道 39km』 作：張芳歌
- 東京都高等学校演劇研究会会長賞／東京都教育委員会賞
筑波大附属駒場 『ポリ 2 プロビレン』 作：筑波大学附属駒場高校演劇部
- 東京都高等学校演劇研究会賞
都立昭和 『隣の隣人』 作：國吉咲貴 潤色：都立昭和高校演劇部
- 優秀賞（上演順）
都立立川 『無題（仮）』 作：石橋裕奈
都立豊多摩 『ラブ・サムバディ』 作：山崎のぞみ・木原延昭
都立小平西 『わかんない』 作：小平西高校演劇部
順天 『幻想夜曲～霞立つ長き春の夜に咲く桃のかほり～』
作：順天高校演劇部
筑波大学附属 『おもちゃの茶々』 作：あさり
都立葛西工科 『漂いながら』 作：北村美玖
都立片倉 『決めてよ、部長さん』 作：桐山達也
都立杉並 『青春葬』 作：長谷川夏葉
都立千早 『ちょっとモーシン』 作：奥村奈美・和田いろは

【特別賞】

- 榊原政常記念創作脚本賞
都立葛西工科 『漂いながら』 作：北村美玖
- 豊博秋記念舞台美術賞
都立駒場 『学校まで、片道 39km』 作：張芳歌
- ◇中央委員会賞（生徒審査員による賞）
都立豊多摩 『ラブ・サムバディ』 作：山崎のぞみ・木原延昭

音楽部門

部門事務局長 桑野 愛

令和6年度活動報告

音楽部門は、他府県では「合唱部門」「吹奏楽部門」「器楽管弦楽部門」と分かれて活動している三部門と一緒に活動していること、生徒主体となって大会運営にあたること、お互いの演奏を聴きあうことで音楽性を高めていくこと、が大きな特徴です。今年度は、コロナ禍以降中断していた部門総会も復活させ、すべての活動を滞りなく実施することができました。

総会は、これまでのようにすべての加盟校が集まる形ではなく、地区大会や中央大会の運営を担っていく生徒の代表者（部門では中央委員と呼びます）だけを集めて行いました。一年間の活動を終え高校三年生になった生徒たちが、これから活動を始める二年生に対してスピーチをしました。中央委員一人ひとりが、この一年で成長したこと、失敗したことなど、大人顔負けの素晴らしいスピーチを行い、見守っていた教員一同、非常に頼もしく、誇らしい気分になりました。

委員会の指導にあたっては、生徒たちの自主性を重んじながらも、やはり教員の支えが必要です。教員の働き方改革が叫ばれて久しい昨今、学校の業務以外に中央委員の指導を行ったり、各種大会の運営準備にあたりするなど、委員生徒を指導する立場となった教員の負担は決して軽いものではありません。それでも、総会での生徒たちのスピーチを聞くと、教科学習では得られない、生徒の成長の本質を見たような気持ちになります。生徒たちも、教科学習の内容が毎年のように増えていく中で、大会の様々な仕事をこなすことは並大抵のことではありません。従って、生徒と教員がお互いに補完しあいながら、生徒たちの学びと成長の場としての委員会機能を維持していく方策を今後も検討し続けたいと思っています。

そして、今年度の地区大会や中央大会では、教員からの助言を自分たちなりに咀嚼してより良い形に結実させる術をもった生徒たちの姿がありました。大会運営にあたっては、中央委員だけでなく、大勢の出演生徒たちがドアマンや警備などの仕事に携わることとなりますが、そうした生徒たちも中央委員の指示を聞きながら自分ご

ととして吸収し、行動していたように思います。今後も良い形で生徒主体の活動が続けられるように教員側の体制を整えていきたいと思っています。

大会当日は、昨年に引き続き、保護者観覧を実施できました。客席数の関係で、広く都民の皆さまにご覧いただくことが難しいのが課題です。できる限り多くの皆さまに、生徒たちの努力の成果としての演奏や、大会運営で輝く様子をご覧いただきたいと思っています。

とうきょう総文2022が開催された際、他県から参加された多くの先生方から、運営にあっている生徒たちの自主的、積極的な行動をお褒めいただきました。それは、長年にわたって音楽部門が培ってきた、生徒主体の大会運営のノウハウがあって実現できたことでした。教員一同、今後も、生徒たちが個々の能力を、演奏面だけでなく、様々な形で発揮できるよう、支えていきたいと思っています。

今年度も、地区大会、中央大会開催にあたっては、各ホールのスタッフの皆さまや講師の先生方にも大変お世話になりました。来年度以降も、様々な課題と向き合いつつ、生徒たちにとって有益な大会となるように部門全体で協力しながら取り組んでいきたいと思っています。

【都高文祭音楽部門地区大会・中央大会の記録】

地区	日程	会場
1	11月10日	昭和音楽大学テアトロ・ジューリオ・ショウワ
2	11月10日	国立オリンピック記念青少年総合センター
3	10月26日	国立オリンピック記念青少年総合センター
4	11月24日	武蔵野音楽大学バッハザール
5	11月16日	江戸川区総合文化センター
6	11月10日	日野市民会館
多摩北	11月17日	国立音楽大学
9	11月17日	日野市民会館
中央大会	令和7年 1月12日	東京文化会館

放送部門

部門事務局長 奥原 玄野

今年で 47 回を数える東京都高等学校文化祭において放送部門では地区大会・中央大会を実施しました。大会を通してアナウンス・朗読・オーディオメッセージ・ビデオメッセージ・オーディオドラマ・ビデオドラマの計 6 部門で高校生の感性を放送メディアを通して表現しました。放送部門では以下のねらいをもって大会を実施し、高校生の創造性を育て、主体的に発信していく姿勢を育成しています。



〈中央大会・閉会式〉



〈中央大会・会場〉

1 ねらい

校内放送に携わる生徒というのは学校によっては部活動であり、または委員会ですが、それは校内放送や番組制作などの自主的な活動の面と連絡放送や学校行事における放送業務や記録といった委員会活動としての面があります。これらの活動を円滑に進めていくためには放送技術の習得はもとより、メンバー相互のチームワーク、そして学校全体や社会を見つめる公平公正な目が不可欠です。このような条件を高めていくために放送部会ではこの文化祭のねらいを以下のように掲げています。

- ア 校内メディアの送り手としての自覚と創造性を育て、情報を主体的に取材・整理・編集し、校内と共に世界に向けて発信する力を育成する。
- イ 美しく豊かな日本語を大切に作る心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- ウ 学校生活の中に潤いを育て、心のふれあいの場を作る。
- エ 発展する社会に対し、放送メディアの果たす役割を学ぶ。
- オ 国際理解を深め、人間尊重の心を培う放送メディアの働きを確かめる。

毎年秋に行われる東京都高等学校文化祭が単なる放送技術の発表会ではなく、他校との交流の場ともなるよう実施しています。また、この大会の成績をもとに、次年度の第 49 回全国高等学校総合文化祭香川大会および第 22 回関東地区高校放送コンクール出場への推薦も行いました。

2 実施状況

第 47 回東京都高等学校文化祭放送部門地区・中央大会はコンテスト形式で行いました。11 月 10 日 (日) に地区大会を国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催し、11 月 17 日 (日) には中央大会および、審査員の先生方の講評、表彰式、閉会式を日本工学院八王子専門学校にて行いました。また、中央大会では放送部門全校参加による「交流広場」が行われ各校の部活動の取り組みなどを紹介して交流を深めました。

結果は次の表の通りでした。

令和6年度 第47回東京都高等学校文化祭 放送部門 中央大会結果

参加校数 45校

	アナウンス	朗読	オーディオメッセージ	ビデオメッセージ	オーディオドラマ	ビデオドラマ
エントリー	73+1	161+6	8	10	6	6
実数(予選)	71+1	149+6	6	10	5	6
実数(決勝)	30+1	64+4	4	6	3	3

A. アナウンス 部門

- ◎ 第1位 城西大城西 保谷 悠月
- ◎ 第2位 桐朋女子 西村 葵
- ◎ 第3位 桐朋女子 長野 璃子
- 第4位 跡見 田口 和楓
- 第4位 都立昭和 増田 心音
- 第4位 桐朋女子 平井 里奈
- 第7位 上水 牛丸 凛希
- 第7位 城西大城西 久保 依緒菜
- 第7位 昭和女子 小祝 藤花
- 第7位 城西大城西 山田 明枝

B. 朗読 部門

- ◎ 第1位 昭和女子 木皿 朱音
- ◎ 第2位 上水 濱野 智彩
- ◎ 第3位 桐朋女子 カステラーノ 寿里真
- 第4位 江戸女 六腕 葉月
- 第4位 江戸女 佐藤 璃子
- 第4位 江戸女 高島 望未
- 第7位 桐朋女子 島中 芽衣
- 第7位 上水 米谷 一那
- 第7位 上水 田中 一花
- 第7位 田雙 佐藤 理名

C. オーディオメッセージ 部門

- ◎ 第1位 岩倉 風を音に変える
- 第2位 桐朋女子 4時45分を奏でて
- 第3位 日大鶴ヶ丘 流れたがれて
- 第4位 東京電機大 駅と共に歩んだ60年

◎印は全国高等学校総合文化祭に推薦
○印は関東地区高校放送コンクールに推薦

3年生の部	
アナウンス 1位	田雙 泊里 真希
朗読 1位	城西大城西 宮部 優至
朗読 2位	岩倉 小室 晴己

D. ビデオメッセージ 部門

- ◎ 第1位 日大三 みんな:3Dになる社会
- ◎ 第2位 日大鶴ヶ丘 Kendama 2.0
- 第3位 小松川 益哉道
- 第4位 錦城 梅は百花の魁~受け継がれる津田梅子の想い~
- 第5位 日大二 つなぐ~ミルクの魅力~
- 第6位 上水 Next 舞台

E. オーディオドラマ 部門

- 第1位 桐朋女子 AIもまた生徒なり
- 第2位 日大鶴ヶ丘 天空、春る。
- 第3位 江戸女 落し者、探し者

総合

- ◎ 第1位 桐朋女子
- ◎ 第2位 上水
- ◎ 第3位 江戸女

F. ビデオドラマ 部門

- 第1位 上水 カミコウキ
- 第2位 専大附属 織
- 第3位 三田国際 普通の変

3 年間を通して

東京都高等学校放送教育研究会の活動も含めると、春にはNHK杯全国高校放送コンテスト東京都大会があります。夏季・春季の休みを利用して広く都内の放送に携わる生徒を対象に、日本工学院専門学校のご協力を得て行っている放送技術講習会は、専門講師によるプロの世界を垣間見ることができる大変貴重な機会として好評です。夏には大きな全国大会が2つあります。NHK杯全国高校放送コンクールと全国高等学校総合文化祭です。今年度は第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会が開催されました。

夏の終わりを告げる国立劇場での全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演では、全国の優秀校の発表が生で体感できる貴重な機会となっており、放送部門は司会を務めています。秋に行われる東京都高等学校文化祭では制作するチームワークを大切に日頃の成果を発表します。年明けの1月には関東地区高校放送コンクールが開催されます。

4 結びに

高校生の放送に注ぐ情熱は冷めることなく続いています。これからも東京都高等学校文化連盟放送部門の活動を通して刻々と変化する社会情勢を見据えて、公共放送の意義、社会的責任や役割などを主体的に考えていける高校生を育成していきます。主役は高校生です。高校生の創り出す今の時代の放送の世界に今後ともご期待ください。結びに、教育庁の東京都高等学校文化連盟に携わる方々、審査や大会運営にご尽力いただいた先生方、講師の方々、また日頃の活動をご指導される多くの先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

写真部門

部門事務局長 宮原 俊夫

写真部門では、昨年に引き続き生徒委員会主催の生徒交流会や2回の研修会、および大学教授等を講師として招いて生徒の作品を講評していただく機会を設け、写真部生徒の技術向上につながる活動を行いました。

令和7年度関東地区高等学校写真展東京大会に向けてさらなる発展を目指していききたいと思います。

*総会・生徒交流会

4月27日（土）

トキワ松学園高等学校 3F 中ホール

*第47回東京都高等学校文化祭写真部門地区大会

8月22日（木）から8月25日（日）まで

会場：東京芸術劇場 ギャラリー1

59校766作品を展示し、最優秀賞10点、優秀賞10点、佳作20点を表彰しました。

<最優秀賞>

都立清瀬高等学校	渡邊 莉緒
都立清瀬高等学校	河村 萌々菜
都立清瀬高等学校	藤田 愛実
都立久留米西高等学校	岩田 壱誠
トキワ松学園高等学校	酒田 夏帆
トキワ松学園高等学校	吉田 奈央
トキワ松学園高等学校	落合 咲奈
都立本所高等学校	伊藤 琳
都立武蔵村山高等学校	遠藤 颯太
都立武蔵村山高等学校	菊地 萌冴

*第47回東京都高等学校文化祭写真部門中央大会

12月16日（月）から12月22日（日）まで

会場：東京都庁都政ギャラリー、都民ホール

51校951作品の応募の中から一次選考した入選作品161作品を展示し、最優秀賞5点、優秀賞5点、佳作10点を表彰しました。また併せて、地区大会の上位20作品も展示しました。

<最優秀賞>

都立世田谷泉高等学校	渡邊 幸太
都立江戸川高等学校	鳥越 玲志
都立武蔵村山高等学校	菊地 萌冴
都立清瀬高等学校	馬場 みずき
都立武蔵村山高等学校	佐多 花奈

*年間優秀作品

☆東京都教育委員会賞

（年間最優秀作品）

「17歳の私へ。」

都立武蔵村山高等学校

菊地 萌冴



☆東京都高等学校文化連盟会長賞 （年間優秀作品）



「第3ターミナル、49時間」 「二人だけの内緒」

都立清瀬高等学校

渡邊 莉緒



都立武蔵村山高等学校

佐多 花奈

*年間学校賞

年間の大会成績によって、上位5校を表彰しました。

☆年間最優秀校

都立武蔵村山高等学校

☆年間優秀校

都立清瀬高等学校、トキワ松学園高等学校

☆年間優良校

錦城高等学校、都立江戸川高等学校

*第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会

7月31日（水）から8月4日（日）まで

会場：関市文化会館

昨年度の優秀作品10点を出品しました。

*第31回関東地区高等学校写真展

令和7年2月4日（火）から2月9日（日）まで

会場：千葉県立美術館（第5展示室）

本年度の優秀作品20点を出品しました。

*令和6年度 高文連規程表彰

・学校：都立武蔵村山高等学校

・個人：トキワ松学園高等学校 福地 輪

都立武蔵村山高等学校 溝口 雪

*その他（研修会・講習会）

日本写真芸術専門学校の先生方による研修会を2回（4/28、8/6）行いました。また東京工芸大学芸術学部写真学科の勝倉 峻太先生、および日本大学芸術学部写真学科の穴吹 有希先生より中央大会入選作品出品者本人への講評をしていただきました。

囲碁部門

部門事務局長 森田 淳

●東京都高等学校囲碁大会（於：日本棋院）

令和 6 年 4 月 28 日（日）、第 58 回東京都高等学校囲碁大会が実施され、第 48 回全国高等学校総合文化祭岐阜大会に出場する代表選手が以下のように決定しました。

【個人戦】

男子：勝良 晴太（駒場東邦高等学校）

女子：倉谷 圭乃（女子聖学院高等学校）

【団体戦】

主将：清水 拓哉（都立上野高等学校）

副将：芮 可心（都立小山台高等学校）

三将：矢治 真帆（早稲田大学系属早稲田実業学校高等部）

●全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会

（於：岐阜県高山市）

令和 6 年 8 月 4 日（日）から 8 月 5 日（月）まで、第 48 回全国高等学校総合文化祭岐阜大会囲碁部門大会が高山市「飛騨・世界生活文化センター」にて実施され、東京都代表の選手が優秀な成績を収めました。

【女子個人戦】

優勝：倉谷 圭乃（女子聖学院高等学校）

●東京都高等学校文化祭中央大会（於：日本棋院）

令和 6 年 11 月 10 日（日）、11 月 17 日（日）、第 47 回東京都高等学校文化祭囲碁部門中央大会〈囲碁部門第 37 回大会〉が実施されました（10 日：個人戦、17 日：団体戦）。結果は以下の通りです。

【個人戦】

男子優勝：山田 一旭（都立西高等学校）

女子優勝：倉谷 圭乃（女子聖学院高等学校）

男子準優勝：清水 拓哉（都立上野高等学校）

女子準優勝：芮 可心（都立小山台高等学校）

男子三位：田畑 志樹（麻布高等学校）

女子三位：早川 天音（白百合学園高等学校）

【団体戦】

男子優勝：駒場東邦高等学校

女子優勝：白百合学園高等学校

男子準優勝：麻布高等学校

女子準優勝：鷗友学園女子高等学校

【第 47 回東京都高等学校文化祭囲碁部門中央大会】



〈指導碁の様子〉



〈対局の様子〉

書道部門

部門事務局長 矢口 正樹

今年度の東京都高等学校文化祭書道部門中央大会は、都立、国立、私立の全日制と定時制高校あわせて、約60校が参加しました。出品数は全学年で約450点、それぞれの生徒の皆さんの想いが伝わる素晴らしい作品でした。

第2次審査をお願いしました白井孝先生から、出品生徒の作品講評を賜ったことは、来年度以降、さらなる書道展の飛躍に向けた励みとなります。

【東京都教育委員会賞】

学年	氏名	学校名
3年	名雪 裕太	大成高等学校
3年	小栢 千紗	女子美術大学附属高等学校
3年	伊藤 滯里	都立板橋有徳高等学校
3年	宮里 井子	豊島岡女子学園高等学校
3年	上野 杏珠	大東文化大学第一高等学校
3年	小澤 文菜	都立調布北高等学校
3年	和田 安以	大成高等学校
2年	高野 真希	都立板橋有徳高等学校
2年	高橋 愛理	都立小岩高等学校
2年	岡田 紗希	大東文化大学第一高等学校
2年	植松 莉生	都立井草高等学校
2年	青野 陽斗	聖徳学園高等学校
2年	松崎 希々香	都立小松川高等学校
2年	金江 亜沙美	大東文化大学第一高等学校

【東京都高等学校文化連盟会長賞】

3年	松川 友美奈	都立井草高等学校
3年	中島 秀典	都立小松川高等学校
3年	熊谷 明瑠	大東文化大学第一高等学校
2年	鈴木 心優	豊島岡女子学園高等学校
2年	及川 夢実	都立井草高等学校
2年	宮脇 美侑	立正大学付属立正高等学校

【優秀賞】

3年	伊野 花奈美	都立調布北高等学校
3年	宮崎 杏	都立井草高等学校
3年	中西 美裕	大東文化大学第一高等学校
3年	中嶋 那菜	都立井草高等学校
3年	矢沢 結菜	八王子実践高等学校
2年	棚原 美桜	都立板橋有徳高等学校
2年	田澤 好菜	都立紅葉川高等学校
1年	田邊 さくら	明治学院高等学校
2年	平野 結夏	女子美術大学附属高等学校
2年	滝澤 慶暉	大東文化大学第一高等学校

【推薦賞】

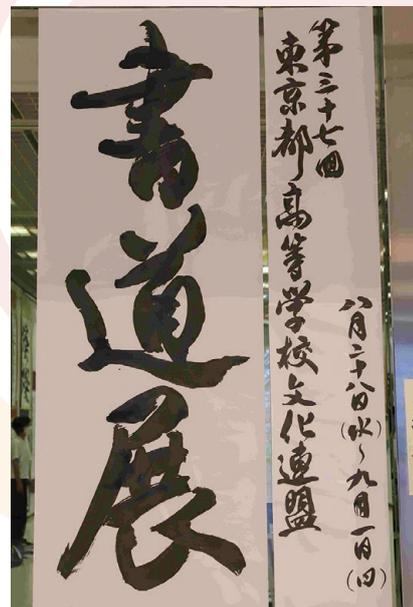
3年	遠藤 颯太	都立武蔵村山高等学校
2年	井澤 恋	大成高等学校

おわりに

東京都高等学校文化祭書道部門中央大会は、生徒たちが様々な境遇の中で作品制作に取り組み、出品しています。生徒たちの中には、高校に入学して初めて筆を持ち、書を表現する者や大学に進学して書道を行いたいと考える者など、実に様々です。これらの生徒たちに共通することは、書を通じて伝えたい想いがあることです。生徒たちは、作品構成や運筆、墨量などを考えて、一枚の紙に向き合い、作品を仕上げています。今後も生徒たちが作品と向き合い表現する場を提供できるよう努めていきたいです。



〈都高文祭（書道展）風景〉



〈都高文祭会場入口〉

美術・工芸部門

部門事務局長 瀬戸口 良太

東京都高等学校文化祭では、12月13日（金）から12月15日（日）までの3日間、東京都美術館において第47回東京都高等学校文化祭美術・工芸部門中央大会（第35回「中央展」）を開催いたしました。今年度は昨年より短い会期ではありましたが、参加校136校、作品数1,113点を展示して、3,558名の来場がありました。

美術・工芸部門においては、この中央大会（「中央展」）の出品作品の中から、生徒と顧問の投票により上位10名の作品を「東京都教育委員会賞」の授与対象とし全国高総文祭へ出品する推薦作品としました。また、得票数の多い作品を別途20点選出して東京都高等学校文化連盟会長賞の対象や部門としての表彰作品としました。

最終日には展示会場を20区画に分けて3～5人程度のグループを作り、互いの作品について感想を述べ合う相互鑑賞会を行いました。会期中は静まりかえっている会場も時間が経過するとともに活発な発言が増え、賑やかな空間に変化していきました。制作時は自分自身と向き合う時間が多く他者との関わりや他校生徒と交流する機会は滅多にありません。作品展示を通して他者とのつながりができたのも、この展示会の素晴らしいところだと実感しました。



「春たけなわ、小鳥の便り」
都立小平南高等学校
須賀 由依



「私の中の不動明王」
都立篠崎高等学校
八木 寧久

東京都教育委員会賞

都立小平南高等学校	2年	須賀 由依
都立日野高等学校	2年	鈴木 聡実
都立篠崎高等学校	2年	八木 寧久
都立小山台高等学校	2年	諸田 歩
都立武蔵丘高等学校	2年	藤岡 葵那
都立上野高等学校	2年	山本 暢希
都立小山台高等学校	2年	湯下 友貴
都立八王子拓真高等学校	2年	埴 佳音
都立日野高等学校	1年	菊池 璃子
都立総合芸術高等学校	1年	尾澤 勘司

東京都高等学校文化連盟会長賞

都立晴海総合高等学校	3年	五十嵐俊介
都立総合芸術高等学校	2年	申 有理
都立立川高等学校	1年	塩塚 結衣
都立小平南高等学校	1年	木藤 日南

奨励賞

都立小平南高等学校	2年	高道ひより
都立石神井高等学校	1年	鳥羽 祥太
都立小金井北高等学校	3年	杉原 幸太
千代田区立九段中等教育学校	2年	大野 翠子
都立総合芸術高等学校	2年	田中 雅桜
都立八王子拓真高等学校	2年	串田 眞衣
都立日野高等学校	1年	尾崎 晶紅
都立小山台高等学校	1年	谷口 雫月
都立総合芸術高等学校	1年	平田 千尋
都立総合芸術高等学校	1年	上村 翠琉
都立狛江高等学校	2年	後藤 柚良
都立雪谷高等学校	2年	石橋 哲也
都立昭和高等学校	2年	北村 彩莉
都立小山台高等学校	2年	馬場 愛音
都立片倉高等学校	2年	村上 愛実
都立上水高等学校	2年	中本 綾香

東京都高等学校文化連盟規程表彰推薦生徒

都立小金井北高等学校	3年	杉原 幸太
------------	----	-------

日本音楽部門

部門事務局長 山田 茂博

令和6年度の日本音楽部門は23校が加盟しています。箏、三味線、尺八、胡弓などの演奏を中心とした活動を行っています。

諸会議

- 令和6年6月14日（金）
総会・第1回研究協議会（都立第一商業高等学校）
- 令和6年9月10日（火）
第2回研究協議会・中央大会顧問打合せ（都立第一商業高等学校）
- 令和7年1月16日（木）
第3回研究協議会・中央大会反省会（都立第一商業高等学校）

第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会

令和6年7月31日（水）、8月1日（木）土岐市文化プラザにて開催されました。東京都からは創価高等学校が参加し、牧野由多可作曲「カプリッチオ」を演奏しました。

創価高等学校は高難度の技術が要求されるこの作品を演奏生徒全員が息をピッタリ合わせて繊細な部分からダイナミックな部分まで表情豊かな演奏を披露しました。審査員からも高い評価を受け、優良賞を受賞しました。

第47回東京都高等学校文化祭日本音楽部門中央大会（第33回発表会）

令和6年10月6日（日）江戸川区総合文化センター大ホールにて20校の参加により実施しました。

今回の審査は作曲家の福島頼秀先生、箏曲演奏家の上條妙子先生にお願いしました。

各校とも日ごろの練習の成果を十分に発揮し、難易度の高い曲でも、見事な表現力で演奏していました。審査員の先生の講評の中でも東京都の日本音楽部門の生徒のレベルの高さを称賛されていました。

審査の結果、優秀賞は創価高等学校となり、同校は全国高総文祭香川大会出場へ推薦されました。優良賞は都立東久留米総合高等学校でした。また、令和6年度東京都高等学校文化連盟規程表彰には都立粕江高等学校が推薦されました。さらに審査員の先生方からの推薦で特別奨励賞を都立城東高等学校が受賞しました。

大会運営は、会場準備、開会・閉会の言葉、場内放送、受付や誘導など、参加校の生徒たちが、積極的に関わってくれて、スムーズな大会進行を支えてくれました。

会場スタッフの方をはじめ、中央大会の運営に携わっていただいた、多くの方々に感謝申し上げます。

日本音楽を演奏する部活動がある高等学校はまだまだあります。多くの学校に加盟していただき、たくさんの高校生に参加していただいて、日本音楽部門の活動がより大きなものにしていければと思います。



〈都高文祭中央大会・都立東久留米総合高等学校の演奏〉



〈都高文祭中央大会・舞台裏風景〉



〈都高文祭中央大会・準備の様子〉



〈都高文祭中央大会・創価高等学校の演奏〉

小倉百人一首かるた部門

部門事務局長 村田 隆太郎

本年度も昨年度までに倣い、以下のように事業計画を立てました。

1 第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会・東京都代表選考会

上級の部：5月3日（金・祝）

初級の部：5月4日（土）

中級の部：5月5日（日）

2 第46回全国高等学校選手権大会 東京都予選

一次予選：5月6日（月・祝）

二次予選：5月26日（日）

最終予選：6月9日（日）

3 第31回関東地区高校生読手選考会 東京都代表選考会

8月8日（木）

4 第47回東京都高等学校文化祭小倉百人一首かるた部門中央大会（兼・第31回関東地区高等学校小倉百人一首かるた大会・東京都代表選考会）

9月23日（月・祝）

5 東京都高等学校競技かるた大会（D級・E級）

11月3日（日）

6 東京都立高等学校かるた大会

12月15日（日）

7 全国高校生かるたグランプリ

令和7年3月8日（土）・9日（日）

「1」については、初心者の部では計61名、中級者の部ではD級選手が55名、E級選手が76名、上級者の部ではC級選手が34名の参加がありました。また、第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会の代表選考会には35名の選手が参加しました。この代表選考会にて選抜されたメンバーで、7月31日（水）から8月2日（金）にかけて山県市総合体育館にて開催された、第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会へと出場しました。競技1日目の予選リーグを難く通過し、決勝では京都府を破って最優秀賞・文部科学大臣賞（優勝）を5年連続でいただきました。

「2」については、学校単位の団体戦（1チーム5名、

8名まで登録可）で、参加校のうち前年度の上位4校および、登録選手の中から有段者の多い学校の計5校をシード校とし、残る28校から二次予選進出の16校を選出しました。5月26日（日）の二次予選においてはその16校で代表の座を争い、関東第一高等学校が1校目の参加校に決定しました。また、6月9日（日）の最終予選では都立駒場高等学校が2校目の参加校となり、上記2校が東京都代表として、7月20日（土）に近江神宮にて開催された全国高等学校選手権大会（団体戦）に出場しました。ここにおいて、関東第一高等学校は初の連覇を飾ることができました。なお、7月21日（日）開催の個人戦においても、A級優勝の2名はともに関東第一高等学校の3年生でした。

「3」については、第31回関東地区読手選考会に出場する読手を選抜するための、東京都代表選考会を実施しました。3校より7名の参加があり、このうち3名が9月1日（日）に都立白鷗高等学校にて実施された上記選考会に出場しました。

「4」については、21校から58名が参加し、9月23日（月・祝）に選考を行いました。昨年度からは各都県代表2チームを選抜するという従来の方式に戻ったため、合計16名を選抜しました。なお、選抜された生徒による各チームは11月15日（金）に横浜武道館での第31回関東地区高等学校小倉百人一首かるた大会に出場し、このうち東京都Aチームが優勝を果たしました。

「5」については、昨年度まで実施していた「初段認定大会」が廃止されたのを受け、全日本かるた協会の後援を得るかたちでD級・E級選手向けの大会を開催しました。都立13校、国私立14校よりE級は92名、D級は55名の参加がありました。そのうち、全勝者を「優勝」、最終戦の敗者を「準優勝」として表彰し、会長推薦という形式での昇段申請を認めました。

「6」については、初心者2～3人組で行う源平戦の大会であり、17校から103名が参加しました。そのうち、全勝したチームを「優勝」として表彰しました。

「7」については、関東地区高等学校小倉百人一首かるた大会に出場した16名の選手を中心に改めて選考会を実施し、選抜された選手8名を東京都代表チームとして編成し、各地区大会を突破した都道府県代表チームと5人制団体戦にて戦います。

本年度も、本部門の活動を支援くださった東京都の競技かるた部や百人一首部の生徒・教員の皆様、そして高校かるたに関わるすべての方々へ深く感謝申し上げます。

将棋部門

部門事務局長 坂本 琢磨

令和6年度 将棋部門の活動

5月3日（金・祝）

第60回全国高等学校将棋選手権大会東京地区予選（団体戦）
（東京都大会・合同練習会の開催場所は全て都立大泉高等学校）
25校より46チームが参加
（優勝校は下記の通り）
男子 早稲田高等学校 女子 明星高等学校

5月4日（土・祝）

第60回全国高等学校将棋選手権大会東京地区予選（個人戦）
42校の生徒が参加
（優勝者・準優勝者は下記の通り 敬称略）
男子個人戦 優勝 攻玉社高等学校 瀧ノ上 悠
準優勝 目黒学院高等学校 板津 賢斗
女子個人戦 優勝 都立日比谷高等学校 木村 玲子
準優勝 山脇学園高等学校 上原江莉奈

8月1日（木）・2日（金）

第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会
第60回全国高等学校将棋選手権大会
（会場は岐阜県高山市）

7月26日（金）・8月6日（火）

東京都高等学校将棋部合同練習会を実施
17校より延べ99名が参加

11月3日（日・祝）

第47回東京都高等学校文化祭将棋部門中央大会
（第33回全国高等学校文化連盟将棋新人大会東京地区予選）
（第35回関東地区高等学校文化連盟将棋大会東京予選大会）
40校の生徒が参加
（優勝者・準優勝者は下記の通り 敬称略）
男子個人戦 優勝 立教池袋高等学校 重田 和樹
準優勝 海城高等学校 藤田 智宏

女子個人戦 優勝 山脇学園高等学校 上原江莉奈
準優勝 都立日比谷高等学校 木村 玲子

12月5日（木）・6日（金）

第36回全国高等学校文化連盟研究大会三重大会

12月22日（日）

第35回関東地区高等学校文化連盟将棋大会
（栃木県宇都宮市で開催）

令和7年1月30日（木）から2月1日（土）まで

第33回全国高等学校文化連盟将棋新人大会
（長崎県長崎市で開催）

令和5年度末をもって、長年将棋部門を牽引なさった都立大泉高等学校の高橋剛先生が事務局長職を勇退され、新体制での事務局運営となりました。

本年は、上位大会出場をかけた男子選手権戦、女子個人戦への参加者が、昨年よりも増加しました。八冠を独占した藤井聡太さんを筆頭に、活躍著しいプロ棋士の影響はもちろん、AIを利用した棋譜解析や、評価値表示による形勢判断が普及し、部員同士での練習精度が高まったことが要因の一つだと考えています。また、新たに将棋部を立ち上げた学校の大会初出場の機会設定、三重県での研究大会参加など、運営事務局としても充実した1年になったと考えています。

令和7年度・8年度には、東京都高文連将棋部門の事務局が、全国高文連将棋専門部の事務局を兼ねることが決まっており、香川・山形・秋田・三重の4県で行われる全国大会のアシストをすることになっています。新しい目標に向かって、事務局の組織のさらなる拡充と、高校将棋の活動のさらなる発展に努めてまいります。



〈都高文祭中央大会の対局風景〉



〈選手権大会（男子個人戦）の対局風景〉



〈選手権大会（男子団体戦）の対局風景〉



〈都高文祭中央大会での指導対局〉

郷土芸能部門

部門事務局長 伊村 洋子

今年度の第47回東京都高等学校文化祭郷土芸能部門（第33回中央大会発表会）は、日野市民会館大ホールで12月15日（日）に開催いたしました。年末の忙しい時期にもかかわらず、多くのお客様にご来場いただき、盛会のうちに終了することができました。

当日は加盟校34校のうち31校が参加予定でしたが、インフルエンザの流行により1校が欠場して30校の発表となりました。各校は、日ごろの練習の成果を存分に発揮したとても素晴らしい演奏を披露しました。今回は審査をプロ太鼓奏者の黒流先生、浅野響葉先生、金子竜太郎先生と辻勝先生にお願いし、講評を頂きました。毎年演奏レベルが上がっており、全国高等学校総合文化祭への推薦校を決定するための審査は困難を極め

ました。東京都は全国で最も参加校数が多いため、時間に余裕のない中で審査を行っていただくのは本当に大変なことです。厳正なる審査の結果、来年度の7月に開催される第49回全国高等学校総合文化祭香川大会への推薦校は、都立松が谷高等学校と都立南多摩中等教育学校の2校に決定しました。

この大会を無事に開催できたのは、ひとえに審査を引き受けてくださった先生方をはじめ、運営に携わっていただいた各校顧問の先生方、書道部門事務局長の矢口先生、郷土芸能部門役員の先生方、またお手伝いいただいた関係校卒業生の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

出演校と演目については以下の通り。

1. 牙（作曲：今田 栄一 編曲：糸原昌史ほか）	都立白鷗高等学校
2. 勇猛心～不動の真念（作曲：小敷 和紀）	都立永山高等学校
3. 関の音 - 第一陣 -（作曲：高橋直也）	都立葛西工科高等学校
4. 最後の伝承 作曲：小敷和紀ほかの提供曲をもとに作調	都立深沢高等学校
5. 顔面力（作曲：高橋直也）	都立王子総合高等学校
6. 幕開け、躍進（作曲：伊藤賢）	東京都市大学等々力高等学校
7. 勇往流転（作曲：新島高校太鼓部）	都立新島高等学校
8. 瀑布（作曲：瀬野賢幸）	聖徳学園高等学校
9. H I M I K O（作曲：今村 敦輝）	都立篠崎高等学校
10. 八多化の響き（作曲：都立南多摩中等教育学校）	都立南多摩中等教育学校
11. 龍奏（作曲：天間 俊次）	都立江北高等学校
12. 赤兎馬（作曲：橋口 隆之）	都立大崎高等学校
13. 武蔵国府太鼓分倍河原合戦太鼓（作曲：南正時）	都立府中東高等学校
14. 諏訪雷（作曲：小口 大八、編曲：山本 麻琴）	都立東大和高等学校
15. ドドン（作曲：中森 道子）	都立瑞穂農芸高等学校
16. 獅子吼（作曲：正富 元輝）	都立町田総合高等学校
17. 春一番（作曲：平井 秀男）	都立翔陽高等学校
19. 燦（作曲：湯澤 元一）	都立美原高等学校
20. <欠場> 菊水太鼓（作曲：吉田慶子）	貞静学園高等学校
21. 蒼天（作曲：山下 優樹）	都立八王子桑志高等学校
22. 天と地（作曲：近藤克次、編曲：花岡哲海）	明星学園高等学校
23. 嶺嵐（作曲：杉並総合高校和太鼓部）	都立杉並総合高等学校
24. 火忍響龍（作曲：小林 亮太）	都立秋留台高等学校
25. 天駆け昇る龍のいななき（作曲：関根まこと）	都立松が谷高等学校
26. 天翔青龍（作曲：北原 永）	都立青梅総合高等学校
27. 秩父屋台囃子（伝承曲）	都立鷺宮高等学校
28. 導火線（作曲：湯澤 元一）	都立八潮高等学校
29. 御神火太鼓乱れ打ち（作曲：菊池 清）	都立大島海洋国際高等学校
30. 一 NEN 発起（作曲：鳥 敬子）	都立農産高等学校
31. 猛（作曲：奥野天翔）	駒込高等学校

また、令和7年2月16日（日）には、日本工学院八王子専門学校片柳記念ホールをお借りして「東京都 高校生第10回太鼓まつり」を開催しました。この企画は生徒たちが演奏を通して交流するイベントとなっており、今回は27校が参加しました。単独での発表以外に、複数校合同での演奏も披露しました。生徒たちののびのびとした演奏に毎回多くの方々から好評をいただいています。南関東インターハイ開会式での合同演奏をきっかけに「コンクールではない形で交流をもっと深めたい」と始めた本イベントも今回で10回目となりました。今後も生徒たちの輪を広げながら続けていきたいと考えています。

東京都の郷土芸能部門の加盟校は全て和太鼓のチームです。



〈都高文祭中央大会・都立南多摩中等教育学校〉



〈都高文祭中央大会・都立松が谷高等学校〉



〈都高文祭中央大会会場入口〉

文芸部門

部門事務局長 川上 絢子

本年度の文芸部門は、6月の地区大会(関東地区高校生文芸大会の予選となる)では「詩」「俳句」、11月の中央大会で「小説」「短歌」「文芸部誌」の賞選考、講演会を行いました。

この大会が、他校と交流できる唯一の機会である学校が多いため、生徒同士の交流の時間である分科会は特に盛り上がりました。他校の生徒との連詩創作を通して、文芸に関する意見を交わしたり、部活動での様子を伝えあったりと、有意義な時間を過ごすことができました。

第 47 回 東京都高等学校文化祭文芸部門地区大会 (第 41 回文芸部のつどい)

令和 6 年 6 月 2 日 (日)
於ハリウッド大学院大学・ハリウッド美容専門学校

短歌部門 (佐佐木頼綱先生選)

【最優秀賞】
どのように人は大人になるのでしょう五時の夕日はゆっくり沈む
東京家政学院高等学校 2 年 武富 愛音

【優秀賞】
東京家政学院高等学校 1 年 林 千乃
都立上野高等学校 2 年 高橋 帆夏
都立上野高等学校 2 年 関口 芽生

詩部門 (高柳誠先生選)

【最優秀賞】『薔薇』
錦城高等学校 3 年 加納 奈央

【優秀賞】
都立上野高等学校 2 年 関口 芽生
都立小金井北高等学校 3 年 佐々木朋美
都立豊多摩高等学校 2 年 峯田 陽仁

第 47 回 東京都高等学校文化祭文芸部門中央大会 (第 42 回文芸部のつどい)

令和 6 年 11 月 23 日 (土・祝)
於ハリウッド大学院大学・ハリウッド美容専門学校

小説部門 (額賀濤先生選)

【最優秀賞】『ウシュアアへ』
都立豊多摩高等学校 3 年 柳沢たま子

【優秀賞】
共立女子高等学校 2 年 小林央音恵
都立小平高等学校 2 年 永田 紗那
都立小松川高等学校 2 年 隅田 一花

俳句部門 (江見悦子先生選)

【最優秀賞】
青天をひこうき雲や広重忌
都立日野高等学校 1 年 中村 れな

【優秀賞】
都立小平高等学校 2 年 藤原 小遙
都立豊多摩高等学校 2 年 峯田 陽仁
都立墨田川高等学校 2 年 内波 文

文芸部誌部門 (吉原洋一先生選)

【最優秀賞】
都立豊多摩高等学校
『テラインコグニタ』(右図)

【優秀賞】
都立上野高等学校
『創文手帖』
都立青梅総合高等学校
『文藝大陸』



第 25 回 関東地区高校生文芸大会 (栃木大会)

令和 6 年 8 月 21 日 (水)
会場：白鷗大学 (小山駅徒歩 1 分)
開催部門：短歌
参加校
都立上野高等学校 都立豊多摩高等学校
都立上水高等学校 都立小平高等学校
都立墨田川高等学校 東京家政学院高等学校

第 48 回 全国高等学校総合文化祭岐阜大会

令和 6 年 7 月 31 日 (水) から 8 月 4 日 (日) まで
参加者
都立上野高等学校 (俳句部門)
2 年 関口 芽生
都立上野高等学校 (短歌部門)
2 年 朝比奈 秀
都立小金井北高等学校 (詩部門)
2 年 小底 桃香
都立上水高等学校 (散文部門)
3 年 上原 伊津香
共立女子高等学校 (文芸部誌部門)
2 年 小林 央音恵



都高文祭中央大会の文芸部誌講演会の様子

地区大会 詩 最優秀作品
『薔薇』
紅い薔薇、ほんの一本 花瓶の中に
水に浮かべて流しきり、花瓶の中
に差し込んだ
つまでも冷める深夜 2 時
明日も姿が見たいから 気持ちい
ぼとぼ、水注いでく
蕾たたく疎霽れ落ちる溢れる気持
ちをいつまでも
瞞み締めつけていたから 布巾
で拭う深夜 2 時
紅い薔薇、ほんの一本
シンクに水を流し込み、茎にシャ
キリと刃を入れる
端々の葉がはらり舞う
擦りこませた塩で痛むから 胸じ
くじくうずく深夜 2 時
紅い薔薇、ほんの一本
ハサミで整え短くしたら、きゅぽ
んと蓋開け瓶詰に
もうそこには湯きのみ
気の迷いですべて片付けるから
終わりに近づく深夜 2 時
紅い薔薇、ほんの一本 欠けら
深夜の窓辺で崩れ散る
私の指で、崩れてく 呆気なく滅
び散っていく
すいと空気に溶け消えて

中央大会 小説 最優秀作品
『ウシュアアへ』
空の色をそのまま溶かしこんだ
かのような水に日光が差しては
乱反射している。時々かすめる
塩素の匂いと水面から突き出た
白い手だとか足。突然と、膝を
抱え込んだ汗も疼くような痛み
も全部不愉快だった。
「……で、なんて書いた？」
鈴を転がしたような声だった。
ふと見やると少女が見学シート
の欄をシャーペンで先でつつい
ていた。腰まである黒髪と異様
なまでに大きい意思の強い黒
目。隣のクラスの子で確か名前
は……ジャージの刺繍は、高梨。
「ごめん何も書けてなくて。何
も思いつかなくてさ」
高梨はただでさえ大きい目を更
に見開いて口角を上げた。
「じゃ、仲間だ」
なんとも清々しい笑顔だった。
仏みたくありがたみがある笑顔
だ。妙に体育座りの姿勢がびん
と伸びていてそれともかっこよ
かった。
「体調は大丈夫？ 少し顔色が
悪く見える」
「ちょっとお腹が痛いだけで全
然大丈夫。ただ」
そんな顔に全て現れていたの
か、と少しばかり焦る。ただ、
と言いかけた言葉を拾うように
息を吸う。
「全部が不安で、こうしている
と気持ちが悪くなる」
高梨の眼差しがあまりに優し
かったからだと思う。縮ってし
まったのだ。
「高梨、さんはどうしてるの？
あたしは毎日不安で不安で頭
がおかしくなっちゃいます」
大した飛躍だった。自分で言っ
たことに気づくのにしばらく時
間がかかった。
(後略)

新聞部門

部門事務局長 寺見 忍

6月～総会及び講習会

6月15日土曜日に部門の総会と新聞講習会を、東京都高等学校文化祭新聞部門地区大会として三輪田学園高等学校にて開催しました。新しく部員が入るこの時期は、新聞作成の基本的なことを中心に講習を企画しています。今回はインタビュー記事を想定し、4、5名ずつの班に分かれ、テーマを決めてお互いにインタビューをしました。他校との情報交換もでき、新入部員は他校の先輩部員から学ぶこともできます。参加生徒は8校から約40名。

夏休み～全国高総文祭、映画取材会

8月1日（木）から3日（土）までおこなわれた第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会新聞部門は、錦城高等学校、吉祥女子高等学校、都立立川高等学校が参加し、交流新聞の作成などを通して全国の仲間たちと交流しました。同岐阜大会では第28回全国高校新聞年間紙面審査賞の最終審査が行われ、錦城高等学校、都立立川高等学校が入賞、お茶の水女子大学附属高等学校が奨励賞をいただきました。

また7月下旬には、8月に全国劇場公開された劇映画の「高校生新聞部員限定 映画試写会」にお誘いを頂きましたので、加盟校に告知しました。高校の新聞部が舞台になっている映画で、終了後には出演者への取材会もあり、参加した生徒たちは、緊張しながらも質問。「高校生記者」として記者会見を体験しました。

9月～新聞コンクール

東京都高等学校文化祭新聞部門中央大会での表彰校を選定する秋の「東京都高等学校新聞コンクール」（後援：東京新聞）は今年で40回の節目を迎えました。今年の応募校は15校。コンクールの各賞は次の通りです。

最優秀賞	錦城高等学校
東京新聞賞	都立立川高等学校
優秀賞	吉祥女子高等学校 昭和第一学園高等学校 都立西高等学校
準優秀賞	光塩女子学院高等科 都立戸山高等学校 三輪田学園高等学校
取材賞	都立戸山高等学校 都立駒場高等学校
論説・コラム賞	三輪田学園高等学校
期待賞	恵泉学園高等学校

（この他に佳作賞、奨励賞）

コンクールは昨年10月から今年9月の1年間に発行したすべての新聞について、内容や発行回数、レイアウトなど多面的に審査します。部門賞は、写真の使い方が

うまい、レイアウトが見やすい、論説がよいなど、特筆すべき部門（項目）があった場合に出しています。最優秀賞の錦城高等学校は、A3判2面新聞と速報をあわせて年間30回も発行しています。回数だけでなく、球技大会翌日の速報や、企画取材など精力的に活動しています。取材賞の都立戸山高等学校は、文化祭で一般の来場者へのインタビュー、「先生のお弁当事情」など遊び心のある企画で、先生の人柄が滲み出るような取材などが光りました。

毎年書いていますが、本来、学校新聞は優劣がつくものではなく、コンクールの結果はあくまで一つの評価に過ぎません。それぞれの学校で、読者である生徒が楽しみにしてくれていることが一番の評価です。紙媒体が減りつつあるこの時代に、新聞を発行していること自体が賞に値すると考えていますので、応募校すべてに賞状を贈っています。1号でも新聞を発行していれば、ぜひ、応募してください。また、各校の新聞の特徴が分かる応募紙の縮刷版も発行しています。参考にいただければと思います。来年度の全国高等学校総合文化祭香川大会には、錦城高等学校・都立立川高等学校・吉祥女子高等学校が参加予定です。

11月～表彰式及びセミナー

コンクールの表彰式は11月16日土曜日に三輪田学園高等学校にておこないました。同時に開催したセミナーでは、いくつかのテーマから校内新聞の特集企画を考えました。班ごとの会議で特集の切り口や紙面のレイアウトを相談しどんな新聞になるのかを発表しました。参加生徒は9校から約30名。

今年度も無事、部門の活動を終えることができました。参加してくれた生徒の皆さんをはじめ、顧問の先生方、関係の皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



〈11月のセミナーにて 班の発表の様子〉

軽音楽部門

部門事務局長 石井 嵩人

軽音楽部門は軽音楽活動の健全な向上発展と相互の親睦を図ることを目的としています。現在加盟校数129校、約7,400名の部員が所属しています。今年度は以下の活動をしています。

◇顧問総会（年1回）

◇軽音楽優良生徒

年度を通じて各加盟校の部活動に尽力した部員に対し表彰を行います。今年度は57校95名を表彰しました。

◇東京都高等学校軽音楽コンテスト

夏に開催される、加盟校所属部活動のバンドごとにエントリーできる大会です。この大会でグランプリ・準グランプリを受賞した3バンドが、全国高等学校軽音楽コンテストへと勝ち進みます。今年度は59校146バンドがエントリーしました。音源予選により59バンドに絞り、準決勝ライブ審査で24バンドを選出し、パルテノン多摩大ホールで決勝大会を行いました。

◇東京都高等学校文化祭軽音楽部門地区及び中央大会

この大会は別名「東京都高等学校対抗バンドフェスティバル」と呼ぶように、加盟校各校代表1バンドがエントリーできる大会です。「学校対抗の新人戦」という特徴もっています。今年度は75校75バンドがエントリーしました。都内の専門学校等で地区大会（ライブ予選）を行い、帝京平成大学沖永記念ホールで中央大会（決勝）を行いました。

◇1年生合同ライブの後援

1年生を育てるためのライブの後援を行っています。

◇生徒対象技術講習会

加盟校部員の技術向上を目的に、音楽系専門学校等が主催する生徒対象技術講習会を後援しました。

◇今年度の大会結果

東京都高等学校軽音楽コンテスト

（決勝大会 8月9日 パルテノン多摩大ホール）

・グランプリ

桜美林高等学校 Marie-Anne

・準グランプリ

都立練馬高等学校 詩文

法政大学高等学校 Fuzzy nova

・奨励賞

正則高等学校 独白四弾

都立桜町高等学校 MUSICA

法政大学高等学校 Maiden Boys

都立桜町高等学校 Arcana

・特別賞

都立武蔵丘高等学校 ヤラズノネ

日本大学第二高等学校 BLUE FRONT

都立小川高等学校 ライトメーカー

第47回東京都高等学校文化祭軽音楽部門地区及び中央大会（地区大会：

11月2日 東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校

2日 日本工学院八王子専門学校八王子キャンパス 片柳記念ホール

9日 日本工学院専門学校蒲田キャンパス

10日 総合学院テクノスカレッジ東京工学院専門学校

中央大会：11月24日 帝京平成大学沖永記念ホール）

・東京都教育委員会賞

都立桜町高等学校 MUSICA

法政大学高等学校 Indexer

都立板橋高等学校 パチカン市国に愛されたい

・東京都高等学校文化連盟会長賞

桜美林高等学校 環状線

都立鷺宮高等学校 不眠事情

早稲田大学高等学院 トウキョウサンショウウオ

都立武蔵丘高等学校 Nu-Magic

・特別賞

都立北園高等学校 MiD DuMP

日本大学第二高等学校 BLUE FRONT

正則高等学校 Próxima



〈都高文祭中央大会の様子〉



〈都高文祭中央大会閉会式の一場面〉

茶道部門

部門事務局長 残間 紀美子

令和6年度、感染症拡大防止のための制限がなくなり、お茶会をはじめとする茶道部門の全ての事業が通常通り運営されることとなりました。どのイベントも大盛況となり、茶道部門加盟校の生徒の皆さんの活躍ぶりが、様々なメディアを通じて全国に紹介されました。

一昨年度に開催された「とうきょう総文2022」を経て、各加盟校のみなさんの意識が大いに高まるとともに、素晴らしい部門の組織体制が構築されつつあります。飛躍を遂げた茶道部門では、イベントに参加する生徒の皆さんが、それぞれ自ら課題を探し出し全体で共有し協働して解決する過程を経て、ともに大きく成長しています。令和6年度は、日本の伝統文化の担い手であるという誇りをもって活動している高校生の皆さんの姿がとても頼もしく感じられた1年となりました。

今年度12月に京都市で開催された「全国高校生伝統文化フェスティバル（高校伝フェス）ー茶道フェスティバルー」において、流派を超え、生徒たちがともに学び合っている東京都高等学校文化連盟茶道部門の多様な活動の様子が紹介されると、全国から参加された他府県の茶道専門部の皆様から非常に高い評価を受けることとなりました。さらに、同じく12月に開催された第47回東京都高等学校文化祭茶道部門中央大会「冬の茶会」にも、他府県からの視察や交流ということで多くのお客様が参加されましたが、流派にかかわらず加盟校全ての学校が主客となることのできる大会を開催しているのは全国で唯一東京だけということで、その運営システムが脚光を浴びることとなりました。

昨今、日本の伝統・文化の担い手がどんどん減り、さまざまな分野でその継承が危ういとされる中、私たち日本人の生活、衣・食・住全てにわたる伝統を内包する茶道文化に注目が集まり、抹茶人気もあいまって、日本はもとより、海外でも大きな人気を博しています。高校においても、国際交流が益々盛んになり、

多くの学校で、茶道部門の生徒の皆さんが大活躍している様子を耳にいたします。生徒の皆さんには、日頃から部門の活動で培っている日本の伝統・文化に対する幅広い知識と多様な経験、高い技能、そして大いなる発信力をもって、グローバルリーダーとして様々な場面で活躍されることを期待しています。

今後も、東京都高等学校文化連盟茶道部門は、多様性と共生の中で新たな価値観の創生が求められるグローバル時代において、自国の伝統・文化を深く理解し、国内外に向けてその活動を広く発信し、相互理解を図りながら未来の共生社会を創造する生徒の皆さんを支援して参ります。東京が全国の茶道部活動を牽引するという気概をもって、茶道を志す高校生が、流派を超えて交流をはかり、ともに学び合い、成長する場として、益々充実した活動の展開を目指します。

【令和6年度茶道部門の主な活動】

- 「リーダー研修会（抹茶茶碗絵付け）」開催（5月）
- 総会（5月）
- 「和菓子づくり研修会」（8月）
- 「書道部門中央大会（書道展）」添釜、展示参加（8月）
- 「東京大茶会（浜離宮恩賜庭園）」参加（10月）
- 「神奈川県高校生茶会（藤澤 遊行寺）」参加（11月）
- 「全国高等学校伝統フェスティバルー茶道フェスティバルー」参加（12月）
- 「第47回東京都高等学校文化祭茶道部門中央大会『冬の茶会』」開催（12月）
- 「リーダー研修会（懐石研修）」開催（3月）

【令和6年度東京都高等学校文化祭中央大会「冬の茶会」表彰】

- 東京都教育委員会賞：都立富士高等学校
- 東京都高等学校文化連盟会長賞：都立東大和南高等学校・都立豊多摩高等学校・都立千歳丘高等学校・都立武蔵野北高等学校・都立小石川中等教育学校・品川エトワール女子高等学校



〈都高文祭書道部門中央大会添釜〉



〈高校伝フェス・茶道フェスティバル〉



〈東京大茶会（浜離宮恩賜庭園）〉



〈都高文祭「冬の茶会」〉

自然科学部門

部門事務局長 大波 健太

東京都高等学校文化祭自然科学部門中央大会（東京都高等学校理科研究発表会）は、全国高等学校総合文化祭香川大会自然科学部門への東京都代表選出も兼ねて開催されています。中央大会（発表会）は、各学校との連携や外部大会等の発表活動を活用して主体的に行動でき、科学技術を支える人材を育成することを目的としています。

生徒が自ら課題を設定した上で研究活動を行い、その成果を発表することで、生徒のコミュニケーション力や言語能力を向上させることができると考えています。また、生徒同士が情報交換・意見交換をすることで、幅広い教養や高い見識、国際的な発信力を身に付けることができるようにしていきたいと考えています。

東京都高等学校文化祭自然科学部門中央大会 （東京都高等学校理科研究発表会）

実施日 令和6年 11月 17日（日）
午前9時から午後4時まで
会場 都立科学技術高等学校

参加校

都立科学技術高等学校、都立小松川高等学校、都立小平高等学校、青稜高等学校、都立立川高等学校、都立多摩科学技術高等学校、都立戸山高等学校、明治学院高等学校、田園調布学園、拓殖大学第一高等学校、都立富士高等学校、本郷高等学校、安田学園高等学校、立教池袋高等学校、都立桜修館中等教育学校、玉川学園高等部、三輪田学園高等学校、跡見学園高等学校（18校）

審査員

『物理』東京工科大学
教授 前田 就彦
『化学』拓殖大学
教授 早川 信一
『生物』日本獣医生命科学大学
准教授 奈良井 朝子
『地学』千葉大学
准教授 泉 賢太郎

発表件数は 33 件で、例年通り化学部門と生物部門に多くの学校が参加していました。参加校は都立、私立合わせて 18 校で新たに参加した高校もあり、この会が少しずつ広がっているのを感じています。

各校生徒が自ら課題を設定した研究の成果を発表することで、生徒のコミュニケーション力や言語能力をさら

に向上させることができていると考えています。さらなる機会を与え、人間力を高めるようにしていきます。

今回も審査会場を各分野それぞれ別室にして実施しました。展示会場であるサイエンススクエアにポスターを展示し、審査を待つ学校の生徒同士が互いの研究活動を論議するなどの交流ができるようにしました。

記念講演

「私たちのカラダにかくされた進化の秘密」
東京大学大学院新領域創成科学研究科
先端生命科学専攻 准教授 中山 一大

講演は 1 時間実施しました。生徒たちは、講演を興味深そうに聞いており、質疑応答でも発言する生徒が多く、時間の関係で質問を 4 件までとしました。

主な発表内容と結果

33 件の発表から選出した各部門の代表校及び発表内容

	学校名	タイトル
物理	都立科学技術高等学校	超音速旅客機に使用するウイングレットの開発
化学	立教池袋高等学校	鉄さびを用いた色素増感太陽電池の作製
生物	都立立川高等学校	河川環境がコイ科魚類の生息に与える影響
地学	都立富士高等学校	太陽像を用いたシーイングの測定とその応用
ポスター	安田学園高等学校	クロマルハナバチの雄蜂の倍数化が概日リズムと活動量に及ぼす影響



〈都高文祭・交流会〉



〈都高文祭・表彰式〉

吟詠剣詩舞部門

部門事務局長 佐藤 孝太

初志を貫き、伝統をつなぐ

東京都高等学校文化連盟吟詠剣詩舞部門を立ち上げて、今年で6年目を迎えました。吟詠剣詩舞は、日本の伝統文化の一つとして古くから受け継がれてきましたが、高等学校の部活動として取り組んでいる学校は決して多くありません。どのように活動を広めていくか、日々試行錯誤しています。

吟詠剣詩舞は、漢詩や和歌などを吟じながら扇や剣で舞い、その世界観を表現する伝統芸能です。発声や姿勢、舞の動き、感情表現など、身につけるべき要素は多岐にわたります。最初は戸惑う生徒も少なくありませんが、基礎を積み重ねることで少しずつ自信をつけ、やがて堂々と舞台に立つ姿を見ると、顧問としても喜びを感じます。

今年もまた、都立六本木高等学校が東京都代表として推薦をいただき、8月、岐阜県瑞穂市のココロかさなるCCNセンターで開催された「清流の国ぎふ総文2024 吟詠剣詩舞部門」に出場しました。

構成吟のテーマを「初志貫徹」としました。この言葉は、まさに私たちの活動そのものを表しているように思えます。吟詠剣詩舞に初めて触れたときの新鮮な気持ちや、舞台に立ちたいという思いを大切に、努力を続けること。その大切さを考えながら、大会に向けた練習を進めました。

構成吟「初志貫徹」の中で、三つの吟題を披露しました。まず、「偶成」の合吟です。「偶成」は、朱熹の詩であり、「少年老い易く学成り難し」という有名な一節で始まります。この詩は、時間の貴重さと学びの大切さを説いており、高校生にとって深い意味を持つ作品です。合吟では、一人一人が自分の声を大切にしながらも、全体として一体感のある吟をつくりあげることが求められます。響き合う声が会場に広がる中で、練習の成果が現れていることを感じました。

次に、「弘道館に梅花を賞す」を詩舞で表現しました。この作品では、満開の梅の花の美しさが詩の中で描かれており、それを舞で表現しました。梅の花は、厳しい冬を耐え抜き、春に美しく咲くことから、忍耐や努力の象徴とされています。生徒たちは、梅の花のしなやかさや、雪の中でたくましく咲く力強さを表現するために、舞の動きを一つ一つ丁寧に確認しながら稽古を積み重ねました。本番の舞台では、梅の花が満開に咲き誇るような美しい動きを見せ、観客の心を惹きつけることができたのではないかと思います。

最後に、「富士山」を吟と舞で披露しました。富士山は、日本を象徴する霊峰であり、その壮大さや荘厳な雰囲気表現することが課題でした。生徒たちは、富士の雄大さをイメージしながら声を響かせ、舞では山頂に降る雪や神竜が優雅に飛翔する動きを取り入れ、霊峰富士の美しさを表現しました。本番の舞台では、堂々とした吟と力強い舞が融合し、日本の誇りを感じさせる演目となりました。

全国の仲間が集うこの舞台に立つことは、生徒たちにとって貴重な経験となりました。他校の演舞を見て学ぶことも多く、自分たちの表現の可能性をさらに広げるきっかけにもなったと感じます。ここまでの過程を大切にしながら、吟詠剣詩舞の奥深さを実感できたことが何よりの収穫でした。

「初志貫徹」という言葉の通り、初心を貫き、最後までやり遂げることの重要性を、今回の「清流の国ぎふ総文2024」を通じて生徒たちは改めて感じたのではないのでしょうか。この経験が、今後の人生においても大きな財産となることを願っています。

吟詠剣詩舞は、日本の伝統文化の一つとして、これからも多くの若者にその魅力を伝えていくべきものです。今後とも真摯に稽古を重ね、この素晴らしい文化を未来へとつないでいきたいと思っています。



〈清流の国ぎふ総文2024 吟詠剣詩舞部門〉

ボードゲーム部門

部門事務局長 岡崎 泰雄

高文連加盟までの経緯

- 平成28（2016）年11月7日
ボードゲーム連盟設立準備委員会の設立に先立ち高文連事務局に加盟の相談を始める
- 平成30（2018）年6月3日
東京都高等学校ボードゲーム連盟が設立される
- 令和元（2019）年6月6日
高文連事務局と都庁で面会し「令和4年度の全国高総文祭が東京開催なので高文連加盟は令和5年度以降になる」旨の回答を頂く
- 令和3（2021）年11月14日
ボードゲーム選手権大会の開会式から1回戦の途中まで高文連副会長の視察があった
- 令和5（2023）年5月24日
高文連事務局に連盟の活動状況の資料を郵送した（5月26日開催の理事会で連盟加盟が議題になった）
- 令和6（2024）年3月26日
理事会でボードゲーム部門の加盟が正式承認された

第7回総会

日程：令和6（2024）年6月9日（日）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
加盟校：7校（都立1校、私立6校）

第7回東京都高等学校ボードゲーム交流大会

日程：令和6（2024）年6月9日（日）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
参加校：都内7校、都外4校
参加人数：都内82名、都外24名
総会と同日の午後に開催される交流大会は加盟・非加盟や都内・都外を問わず、附属中学校の生徒も含め、生徒相互の親睦を深めることを目的として開催しています。
参加各校の生徒が持参したボードゲームをルール説明し、他校の生徒と卓を囲み、知らないゲームと一緒にプレイする楽しみは異文化交流の醍醐味そのものです。同時開催した「初めてのモノポリー」「初めてのカタン」「初めてのカルカソヌ」はグランプリや選手権大会の参加を支援する企画で、競技としてボードゲームに取り組み始める機会を提供しています。

第1回高等学校ボードゲームグランプリ（中止）

略称：グランプリ東京2024-1st
日程：令和6（2024）年8月16日（金）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
高文連加盟に伴い選手権大会を中央大会にする関係で、参加が加盟校の高校生に限定されます。これを見越して、加盟校に限定されないような競技的大会の開催を検討した結果、モノポリー、カタン、カルカソヌの種目固定での個人戦となりました。

迎えた当日は台風7号（アンピル）の影響により中止を余儀なくされました。記念すべき第1回のはずでしたが、幻の第1回となったことは大変残念です。今後は天候にも柔軟に対応できる大会運営を模索してまいります。

第7回東京都高等学校ボードゲーム選手権大会

日程：令和6（2024）年11月10日（日）
会場：国立オリンピック記念青少年総合センター
選手権大会は各クラブの活動の成果を試す団体戦形式の競技的大会として開催してきました。令和4（2022）年度の第5回から非加盟校に門戸を開いていましたが、高文連加盟に伴い令和7（2025）年度の第8回からは加盟校の高校生だけが参加できる中央大会としての開催を目指しています。

【団体】

優勝：武蔵高等学校中学校Aチーム
準優勝：中央大学杉並高等学校Cチーム

【モノポリー】

優勝：中央大学杉並高等学校Cチーム
準優勝：武蔵高等学校中学校Aチーム

【カタン】

優勝：中央大学杉並高等学校Bチーム
準優勝：中央大学杉並高等学校Cチーム

【カルカソヌ】

優勝：開成中学校・高等学校Dチーム
準優勝：武蔵高等学校中学校Aチーム

優良生徒表彰

当該年度に各加盟校で部活動の発展に尽力した高校生を本部門独自に表彰します。今年度は4校を表彰しました。

以上、加盟1年目の報告でした。

第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会を終えて

昭和52年に千葉県で開催された第1回高総文祭は、日本列島を一巡し、2巡目の最初は「清流の国ぎふ総文2024」として、「集え青き春 漕ぎ出せ知の筏 水面煌めく清流の国へ」のテーマのもとで、7月31日（水）より8月5日（月）までの6日間にわたり岐阜県で開催されました。

総合開会式では、美術・工芸部門の東京代表生徒が顧問の先生の御指導のもと立派に務めを果たしておられましたことを報告し、御礼申し上げます。

部門大会では、以下のとおりの結果となりました。

演劇部門 優良賞 目黒日本大学高等学校
優良賞 都立千早高等学校
日本音楽部門 優良賞 創価高等学校
郷土芸能部門 和太鼓部門 優良賞 都立南多摩中等教育学校

書道部門 奨励賞 女子美術大学附属高等学校 小栢 千紗
特別賞 都立小松川高等学校 松崎希々香

放送部門 アナウンス部門 特別賞 田園調布雙葉高等学校 泊里 真希

囲碁部門 団体戦 第6位 東京都 都立上野高等学校 清水 拓哉
都立小山台高等学校 芮 可心
早稲田大学系属早稲田実業学校高等部 矢治 真帆
男子個人戦 第3位 駒場東邦高等学校 勝良 晴太
女子個人戦 優勝・文部科学大臣賞 女子聖学院高等学校 倉谷 圭乃

弁論部門 優秀賞 渋谷教育学園渋谷高等学校 二井 春香

小倉百人一首かるた部門 最優秀賞・文部科学大臣賞
東京都 関東第一高等学校 矢島 聖蘭
城北高等学校 阪田 雄大
関東第一高等学校 小西美彩子
関東第一高等学校 伊津野 弘
都立駒場高等学校 塩冶 円
都立駒場高等学校 後藤 遥
都立白鷗高等学校 諏訪 稀
都立南多摩中等教育学校 島田 萌生

自然科学部門
研究発表：物理分野 奨励賞 都立科学技術高等学校科学研究部

研究発表：化学部門 優秀賞・文化庁長官賞 立教池袋高等学校科学部

ポスター発表： 安田学園高等学校生物部

（以上全国高文連会報No.39 第48回全国高等学校総合文化祭

（清流の国ぎふ総文2024）表彰一覧より転記）

また、第48回全国高等学校総合文化祭岐阜県実行委員会ホームページには次の二団体も掲載されています。

花いけバトル部門
ぎふ花と緑の振興コンソーシアム理事長賞・岐阜県知事賞、岐阜県高等学校文化連盟会長賞 正則学園高等学校

パレード グッドパレード賞 大妻高等学校

「漕ぎ出せ 新国立劇場の夏」

令和6年8月24日（土）と25日（日）に第35回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演が、『漕ぎ出せ 新国立劇場の夏』のテーマのもと、建て替えのために閉場された国立劇場に代わり、東京・初台にある「新国立劇場」で開催されました。主催者は、文化庁、公益社団法人全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会及び東京都高等学校文化連盟です。出演校は、その年に開催された全国高等学校総合文化祭の、演劇、日本音楽、郷土芸能各部門の優秀校4校合計12校と、東京都から推薦された演劇の特別出演校1校と全国高総文祭開催県からのオープニング校が出演しました。

24日の初日は、都倉俊一文化庁長官挨拶から始まり、放送部門生徒による司会進行により、日本音楽部門は、熊本県立第二高等学校、和歌山県立橋本高等学校、郷土芸能部門からは、愛知県立松蔭高等学校、白頭学院建国高等学校（大阪府）、演劇部門からは徳島県立城東高等学校、宮崎県立宮崎南高等学校の6校が公演を行いました。

翌25日は、学校法人安達学園中京高等学校（岐阜県）の和太鼓によるオープニングで幕を開け、日本音楽部門からは、愛媛県立宇和島南中等教育学校、関西創価高等学校（大阪府）、郷土芸能からは、沖縄県立八重山高等学校、千葉県立八千代高等学校が出演し、立川女子高等学校（東京都）の演劇特別出演を挟み、岐阜県立長良高等学校、青森県立青森中央高等学校が演劇を披露しました。

公演自体は無事に終了しましたが、新しい会場で公演を開催するにあたっては、様々な課題を克服しなければならず、想定以上の時間と労力が必要でした。特に充て職として担当者が入れ替わり、業務記録が残っていないことは、大会運営への関与が希薄となり、一部の役員や初代国立劇場関係者への依存度を大きくしてしまったことに繋がり、35年の大きな反省点と言えます。遅ればせながらもそのような状況を共有し、業務記録を残すことが大切であることが主催者間で申し合わせが出来たことは今回の成果と言えます。いずれにしても、出演校数の変更などを現在検討していますが、生徒のために最高の場を約束するための優秀校東京公演であるという基本に立ち返った理念に基づいた検証のないままに、場当たりの変更を加えても、今求められている持続可能な大会となるのかは不安が残ります。

令和 6 年度東京都高等学校文化連盟事業報告

●東京都教育委員会と共同主催の事業

第 48 回全国高等学校総合文化祭岐阜大会

月	日	内 容
5	13	参加申込書提出
5月下旬～6月上旬		作品発送（美術・工芸、書道、写真）
7	14	壮行会（都庁第一本庁舎 5 階大会議場）
	31	総合開会式（長良川国際会議場）、パレード（岐阜メモリアルセンター北西）
7/31～8/5		岐阜県各地で開催（岐阜市、羽島市、可児市、土岐市、瑞穂市、下呂市、関市、多治見市、高山市、大野町、山県市、中津川市、飛騨市、大垣市、関ヶ原町）

第 49 回全国高等学校総合文化祭香川大会（令和 7 年 7 月 26 日～7 月 31 日）

11	22	推薦依頼
12	20	部門推薦書提出
3	下旬	参加申込手続開始（予定）

第 47 回東京都高等学校文化祭

6月～1月		各部門地区大会、中央大会
7	14	総合開会式（都庁第一本庁舎 5 階大会議場）

●文化庁、全国高等学校文化連盟、東京都教育委員会と共同主催の事業

第 35 回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演

月	日	内 容
5	21	第 1 回実行委員会（星陵会館）
8	1	日本音楽部門代表校決定、打合せ（土岐市）
	2	演劇部門代表校決定、打合せ（羽島市）
	5	郷土芸能部門代表校決定、打合せ（土岐市）
	9	出演校顧問打合せ（新国立劇場）
	20～23	東京公演仕込み・リハーサル（新国立劇場）
	24～25	東京公演本番（新国立劇場）
10	16	第 2 回実行委員会（星陵会館）
1	31	記録集発行
2	17	第 3 回実行委員会（星陵会館）・第 36 回優秀校東京公演ポスター審査会（星陵会館）

●全国高文連関係会議・事業

月	日	内 容
5	21	全国高等学校文化連盟定時総会（星陵会館）
8	1	全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議（岐阜県）
12	5・6	第 36 回全国高等学校文化連盟研究大会（三重県） 6 日実務担当者会議（三重県）

●独自事業

月	日	内 容
7	下旬	令和 6 年度東京都高等学校文化連盟要覧発行
10	25	文化活動優良生徒推薦依頼（都内各高等学校、中等教育学校等）
12	23	東京都高等学校文化連盟規程による表彰校（者）推薦依頼（各部門）
2	4・5	文化活動優良生徒賞状配布（都庁）
2	27・28	東京都高等学校文化連盟規程表彰賞状等配布
3	下旬	高文連情報第 46 号発行

●その他事業

ホームページ随時更新

●会議

月	日	内 容
5	2	第 1 回常務理事会（オンライン会議）
5	21	関東地区高文連第 1 回理事会（星陵会館）
5	24	第 1 回理事会（都議会議事堂 1 階都民ホール）
1	16	関東地区高文連第 2 回理事会（星陵会館）
3	26	第 2 回常務理事会・第 2 回理事会（都庁第二本庁舎 1 階二庁ホール）

高文連情報（第 46 号）

発行 東京都高等学校文化連盟

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号 東京都庁第二本庁舎 15 階

東京都教育庁指導部 東京都高等学校文化連盟

電話 03 (5320) 7471 電子メール jimukyoku@tokyo-koubunren.jp

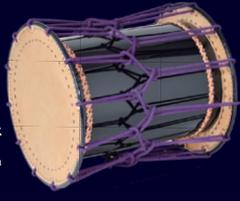
発行 令和 7 年 3 月

令和 7 年度 公益社団法人全国高等学校文化連盟賛助会員

東京都高等学校文化連盟分 (五十音順)

太鼓販売・修理・太鼓レンタル・太鼓演奏・太鼓関連グッズの販売

大鼓の象 響和館



一般財団法人 浅野太鼓文化研究所
The Asano Foundation for Taiko Culture Research

石川県白山市水島町 1038-1 〒924-0855
tel: 076-277-1721 fax: 076-277-8777 e-mail: asano@taiko.or.jp https://www.taiko.or.jp/
オンラインショップ「日本の色」 https://https://nipponnoiro.com/



多摩恵運輸株式会社

東京都東大和市蔵敷 1-306-3
フリーダイヤル: 0120-0454-39
https://www.tamakei.co.jp

<自転車安全利用五則>

- ・車道が原則、左側を通行 歩道は例外、歩行者を優先
- ・交差点では信号と一時停止を守って、安全確認
- ・夜間はライトを点灯・飲酒運転は禁止・ヘルメットを着用

卒業用品 (卒業記念品・卒業証書関連・コサージュなど) 学園祭・体育祭・部活動向けプリントウェア 部活動支援アプリ 学校デジタル支援事業



ASFEEL 〒163-1325 東京都新宿区新宿6-5-1 新宿アイランドタワー25階
TEL: 03-3342-1141 FAX: 03-3342-1142
https://www.asfeel.jp

アスフィール株式会社



「フォトチョイス」はプロカメラマンが撮影した写真をインターネットで閲覧・購入できるサービスです。

フォトチョイス <https://photochoice.jp/>

ご不明な点は以下連絡先までお問い合わせください (TEL: 平日10:00~17:00/E-mail)

株式会社フォトクリエイト TEL: 050-1743-5272 MAIL: support@photocreate.co.jp

インターネット写真販売サービス

PhotoReco <https://www.photoreco.com/>



プロカメラマンの派遣・撮影から販売・集金・印刷・配送まで、トータルサポート。大切な思い出をもっと身近に。リーズナブルで安心の写真販売サービス。

株式会社エクスラント 東京都港区新橋 2-5-5 新橋 2 丁目 MT ビル 7 階
TEL 03-6627-3616 / FAX 03-6627-3666 / URL: https://exrant.co.jp/



文化ネット

<https://www.bunkanet.jp>



公益財団法人佐々木泰樹育英会

〒104-6591 東京都中央区明石町 8-1 聖路加タワー 40 階

事業 語詩句奨学金 語詩句賞 語詩句投稿サイト 72h 運営



この国の佳き伝統とともに

宮本卯之助

株式会社 宮本卯之助商店
創業文久元年 太鼓・神輿・祭礼具 製造販売

〒111-0035 東京都台東区西浅草 2-1-1
TEL 03-3844-2141 FAX 03-3842-6730
www.miyamoto-unosuke.co.jp



しょうだいいんさつしゃ
株式会社 **正大印刷社**

イベント、会議、研修などの印刷物全般、グッズ製作などデザイン作成からすべてまとめてご対応させていただきます。なんでもお気軽にご相談ください!

〒112-0011 東京都文京区千石 3-40-12
TEL. 03-5978-6191 FAX. 03-5978-6192

筆墨硯紙書道用品専門店
書道家用筆・かな料紙・画仙紙・法帖
表装・軸装・額装

めいほうどう
有限公司 **鳴鳳堂**

〒179-0081 東京都練馬区北町 2-29-12
TEL 03(3932)1738
FAX 03(3559)3651
E-mail meihou@royal.ocn.ne.jp
<http://www.office-web.jp/meihoudou>